

大阪狭山市文化財報告書36

大阪狭山市内遺跡群 発掘調査概要報告書19



平成21年(2009年)3月

大阪狭山市教育委員会

大阪狭山市内遺跡群
発掘調査概要報告書19



平成21年(2009年)3月

大阪狭山市教育委員会

序 文

大阪狭山市内には大阪府の史跡名勝に指定されております狭山池をはじめとして、数多くの文化財があります。狭山池では平成の改修に伴う発掘調査によって多くの遺跡、遺構が出土し、下層東柵・中柵等が大阪府の指定文化財となりました。これらの文化遺産を展示する大阪府立狭山池博物館は、平成21年度から大阪府と本市の共同運営によって管理・運営を行い、同博物館内へ市立郷土資料館を移設することとなりました。より多くの方々に、本市の歴史・文化に関する展示をご観覧いただけることと存じます。

さて、本市教育委員会では、平成2年度より個人住宅などの建築に伴う発掘調査を継続的に実施してまいりました。本年度は池尻城跡などの遺跡で調査を実施し、貴重な成果を得ることができました。本書はこれらの調査成果をまとめたものです。本書が地域の歴史を考える上での一助となれば幸いです。

調査にあたりましては、建築主の皆様ならびに周辺の皆様に多大なご協力を賜り、厚く感謝いたします。

今後とも本市文化財保護行政に対するご理解とご支援のほどを、よろしくお願ひ申し上げます。

平成21年(2009年)3月

大阪狭山市教育委員会
教育長 宮 崎 順 介

例　　言

1. 本書は国庫の補助を受け、大阪狭山市教育委員会が平成20年度事業として大阪狭山市内で実施した個人住宅建築等に伴う埋蔵文化財の緊急発掘調査の結果をまとめた概要報告書である。
2. 本書に収録した調査は以下の通りである。

1 池尻城跡	07-01区
	08-01区
	08-02区
2 陶邑窯跡群	陶器山51号窯立会
3 範囲確認調査	080425区、090115区
3. 発掘調査は、大阪狭山市教育委員会教育部社会教育・スポーツ振興グループ主査 植田隆司が担当した。現地調査においては、鳥山文夫、米澤孝成ら各氏のご協力を得た。
4. 内業調査については植田が担当し、若宮美佐、橋本和美、樋口智子ら各氏のご協力を得た。出土遺物の撮影は有限会社阿南写真工房に委託した。
5. 本書の執筆・編集は植田が担当した。

本　文　目　次

(頁)

序 文	大阪狭山市教育委員会教育長 宮崎順介
例 言	
はじめに	1
1. 池尻城跡	07-01区..... 10
	08-01区..... 12
	08-02区..... 15
2. 陶邑窯跡群	陶器山51号窯..... 18
	08-01区..... 26
3. 範囲確認調査	080425区..... 28
	090115区..... 28
まとめ	29
報告書抄録	30

はじめに

大阪狭山市内では1960年代以降に急激な人口増加が生じ、南部の丘陵地を中心に住宅開発が進んだ。1980年代以降はそのころの勢いは衰えたものの、小規模な開発は盛んである。また、近年では1960年代～1980年代に新築された住宅の建て替えが進んでおり、これらに伴う埋蔵文化財の発掘調査が多い。

つぎに大阪狭山市内の遺跡群が所在するエリアの歴史的環境について触れておきたい。

市域における旧石器時代の資料として、寺ヶ池遺跡で採集された晩期旧石器時代の有舌尖頭器が知られている。また、東野遺跡・池之原地区・ひつ池の各所にて採集されたナイフ型石器もこの時代の遺物となりうる可能性がある¹⁾。縄文時代の資料としては、寺ヶ池遺跡・東村遺跡・大鳥池遺跡・へど池・狭山池・ひつ池・上明池・池之原地区で採集された石器・スクレイバーなどが知られており²⁾、当該調査区周辺域が縄文人の狩猟場であったことを伺わせる。付近の縄文時代の集落遺跡としては富田林市に所在する錦織遺跡が著名であるが、旧天野川流域ではこの時期の集落遺跡はまだ確認されていない。弥生時代後期になると旧天野川流域でも集落遺跡がみられるようになる。狭山池の南方約3kmの地点にある茱萸木遺跡は弥生時代後期の高地性集落である³⁾。

古墳時代以降の本市域内における人々の活動の痕跡は、近年の発掘調査成果によって、明確に認識可能なものとなっている。旧天野川流域の沖積低地に立地する池尻遺跡では、溝・土坑・焼土坑など住居跡となる可能性がある遺構とともに庄内式の壺・壺と布留式の壺が出土しており、古墳時代前期までは旧天野川流域に集落が成立していたことを示している⁴⁾。旧天野川右岸の中位段丘上に立地する狭山藩陣屋跡の下屋敷では、2002年の調査で、自然の谷地形の底部分からTK47型式の須恵器が出土した。古墳時代中期の集落が中位段丘上に存在した可能性が高い⁵⁾。

古墳時代中期以後、泉北丘陵を中心とした地域で須恵器生産が盛んに行われ、陶邑窯跡群が形成された。5世紀後葉から6世紀前葉までの本市域内における窯の造営は、陶器山丘陵およびその北方に連続する高位段丘の陶器山(MT)地区のみに限定されるようである。発掘調査が行われた市内の窯跡としては、TK47型式～MT15型式の須恵器を生産した陶器山252号窯(MT252・山本1号窯)⁶⁾がある。また、その南南東約800mの地点には陶器山15号窯(MT15)⁷⁾がある。増大した須恵器の需要に対応して、6世紀後半の陶邑窯跡群における生産活動はより活発なものとなる。窯体の構築場所と燃料の薪をあらたに確保するため、窯の造営は東方の中位段丘へとその分布域を拡大し、狭山池(SY)地区の窯跡群が形成される。TK43型式～TK209型式の須恵器を产出する狭山池(SY)地区の窯跡には、太満池北窯(SY1・TMN)⁸⁾・太満池南窯(SY2・TMS)⁹⁾・狭山池2号窯(SY9・SI2)¹⁰⁾・狭山池3号窯(SY10・SI3)¹¹⁾・狭山池5号窯(SY11・SI5)¹²⁾・池尻新池窯(SY21・ISS)¹³⁾・ひつ池東窯(SY25・HTE)がある。窯の造営域が最も東方へと拡大した当該期以降の窯の造営は東除川水系の中位段丘崖より以西で行われており、この谷筋が陶邑窯跡群狭山地区の東端となっている。7世紀に入ると本市域内

における須恵器窯の数は減少するが、狹山池主谷周辺の中位段丘斜面での操業は継続し、東池尻1号窯(SY7・H11)¹⁴⁾・狹山池4号窯(SY12・SI4)¹⁵⁾・ひつ池西窯(SY24・HTW)¹⁶⁾などが確認されている。

7世紀前葉、狹山池主谷を横断する全長約300m・全高約6mの堤を築くことによって旧天野川(西除川)と三屋川の流れを堰き止め、ダム式のため池である狹山池が造られた。この狹山池を堰き止める堤の直下から、コウヤマキを例り抜いてつくられた桶管を連結する下層東柵が検出された。この全長約60mにも達する底柵の埋設時期は、桶管材であるコウヤマキの伐採年代が西暦616年であることが年輪年代測定法により判明したため、同年以降の非常に限定された時間幅の中に求められることとなった¹⁷⁾。狹山池築造以後、その灌漑範囲に位置する下流地域では、美原町平尾遺跡・太井遺跡・丹上遺跡・羽曳野市郡戸遺跡・河原城遺跡など、土地開発の拠点となる遺跡が成立していった。大阪狹山市域では7世紀後葉から8世紀初頭頃、旧天野川右岸の中位段丘上に東野庵寺が建立された。

奈良時代、天平3(731)年に行基が狹山池院と尼院を建てたと『行基年譜』に記されている。これに関連する建物跡は現在までに確認されていない。が、おそらくは狹山池北東の中位段丘上、もしくは北西の中位段丘上に占地していたのではないかと想定される。なお、狹山池北堤には行基が改修したと考えられる厚さ60cmの盛土が確認されている¹⁸⁾。また、天平宝字6(762)年、狹山池の大規模な改修事が実施されたことが『続日本紀』に記されている。発掘調査では、狹山池北堤を築造当初と比較して2倍に拡幅する大規模な盛土工事が実施されたことが判明した。また、飛鳥時代に埋設された下層東柵を池側へ約13m延長する工事もこの時に行われたようである¹⁹⁾。

平安時代、最澄が写した弘仁10(819)年の記録によれば、僧勤操が「狹山池所」にいたことがわかる。狹山池改修に関わる役所が、狹山池の近傍に設置されていたものと思われる。なお、狹山池下層東柵では、奈良時代にあらためて造られた取水部から、年輪年代測定法によって弘仁8(817)年に伐採された部材が確認されており、勤操による弘仁の改修時に、下層東柵取水部の補修が行われたと考えられている²⁰⁾。また、このデータによって、飛鳥時代に埋設された下層東柵が、補修を受けながらも200年間以上も機能し続けたことが明らかになった。

鎌倉時代、重源によって狹山池の改修が行われた。発掘調査で出土した江戸時代の中柵に使用されていた石材の中から重源狹山池改修碑が出土し、この碑文から、重源の改修が建仁2(1202)年に行われたことが確認された²¹⁾。同時に出土した石材は、古墳時代の家形石棺や横口式石槨の材を転用したもので、重源の改修時には石柵として利用していたものと推定される²²⁾。13世紀前半、狹山池北堤から約400m北方の地では、池尻遺跡が営まれており、水田跡や屋敷地などの遺構が検出されている。また、池尻遺跡の13世紀前半の遺構面は、複数回にわたると考えられる洪水によって堆積した砂層が確認されており、この時期に狹山池北堤は一度決壊したものと考えられる。南北朝の動乱期、狹山池北西に築かれた池尻城の周辺では、延元3(1338)年と正平2(1347)年に合戦が行われた。池尻城跡からは13世紀末から15世紀前半にかけての建物跡が確認されている²³⁾。室町時代、天文年間から永禄2年頃(1532年~1559年)、安見美作守によって狹山池の改修が行われたが失敗した旨が、慶長13(1608)年に刻まれた西柵銘板

に記されているが²⁴⁾、考古学的にはこれを裏付ける有効な資料がいまだ確認されていない。

文禄5(1596)年に発生した大地震によって狹山池北堤は大きな被害を受けたようで、その時の決壊痕跡が北堤断面調査²⁵⁾等によって確認されている。慶長13(1608)年、豊臣秀頼の家臣片桐且元によって、狹山池では慶長の改修が行われた。この時の改修は、西柵・中柵・東柵をあらたに造り、西除の造り替え・東除の新設、北堤のかさ上げを行う大規模なものであったことが発掘調査によって確認された。この時につくられた西柵・中柵は、江戸時代・明治時代・大正時代と補修を施しながら継続して使用され続けた。元和2(1616)年、北条氏信が狹山池の北東に陣屋を構え、狹山藩が開かれる。氏信は、小田原の北条氏康の子、氏規の孫にあたる。寛永14(1637)年、北条氏宗の代に狹山藩陣屋の上屋敷が造営される。宝永6(1709)年、北条氏朝の代になって、現在の狹山遊園跡地を中心とした地域に、狹山藩陣屋の下屋敷が造営される。以後、明治維新に至るまでの間、狹山藩の陣屋は一貫してこの地に営まれていた。上屋敷における発掘調査では、天明2(1782)年の大火災で形成された焼土層や灰層を境にして、大火以前の下層遺構面と、大火以後から幕末頃までの上層遺構面が確認されている。下屋敷においては、発掘調査件数が少ないが、狹山遊園跡地北側の住宅地で、当時の武家屋敷の遺構が確認されている。狹山遊園跡地の南半部では、幕末以後に作成されたと推定される「狹山藩陣屋下屋敷図」²⁶⁾によると、主として馬場や芝地や畠地として利用されていたようである。

註記

- 1) a. 上野正和「狹山の考古学研究と私」『さやま誌 大阪狹山市文化財紀要』創刊号、1992年
b. 勝部明生「狹山の石器」「大阪狹山市史要」1988年
c. 狹山町史編纂委員会『狹山町史』第2巻、史料編、1966年
- 2) 前出註1文献
- 3) 1960年代後半に、近畿大学医学部附属病院用地造成に伴って発掘調査が行われ、現地説明会も実施されたようであるが、詳細は不明である。
- 4) 「狹山池」埋蔵文化財編、「第2章第5節 下流遺跡の調査 I 池尻遺跡(1)」1998年
- 5) 「平成14年度 狹山藩陣屋跡発掘調査報告書I」「大阪狹山市文化財報告書」26、2002年
- 6) 「山本1号窯発掘調査概要報告書」「大阪狹山市文化財報告書」1、1988年
- 7) 田沼昭三「陶邑古窯址群I」「平安学園考古学クラブ研究論集」10、1968年
- 8) 「太満池南窯・北窯発掘調査報告書」「大阪狹山市文化財報告書」5、1991年
- 9) 前出註8文献
- 10) 「狹山池」埋蔵文化財編、「第2章 第4節 須恵器窯の調査 II 狹山池2号窯」1998年
- 11) 「狹山池」埋蔵文化財編、「第2章 第4節 須恵器窯の調査 III 狹山池3号窯」1998年
- 12) 「狹山池 5号窯・狹山藩陣屋跡」「大阪狹山市文化財報告書」31、2004年
- 13) 「池尻新池南窯発掘調査報告－陶邑窯跡群の調査－」「大阪狹山市文化財報告書」7、1992年
- 14) 「狹山池」埋蔵文化財編、「第2章 第4節 須恵器窯の調査 V 東池尻1号窯」狹山池調査事務所、1998年
- 15) 「狹山池」埋蔵文化財編、「第2章 第4節 須恵器窯の調査 IV 狹山池4号窯」狹山池調査事務所、

1998年

- 16) 「ひつ池西窯－陶邑窯跡群の調査－」『大阪狭山市文化財報告書』10、1993年
- 17) 『狹山池』埋蔵文化財編、「第2章 第2節 樋の調査 Ⅲ 東柵下層遺構』狹山池調査事務所、1998年
- 18) 『狹山池』埋蔵文化財編、「第2章 第1節 北堤堤体の調査 I 北堤断面』狹山池調査事務所、1998年
- 19) 前出註17文献
- 20) a. 光谷拓実「狹山池出土木柵の年輪年代」『狹山池』埋蔵文化財編、第3章 第3節、狹山池調査事務所、1998年
b. 小山田宏一・中山潔・有井宏子・白江人智・植田隆司『大阪府立狹山池博物館常設展示案内』大阪府立狹山池博物館図録1、2001年
- 21) 『狹山池』埋蔵文化財編、「第2章 第2節 樋の調査 I 中柵遺構』狹山池調査事務所、1998年
- 22) 市川秀之「狹山池出土の柵の復元と系譜」『狹山池』埋蔵文化財編、第3章 第5節、狹山池調査事務所、1998年
- 23) 小林義孝『池尻城跡発掘調査概要』、大阪府教育委員会、1987年
- 24) 前出註20 b 文献
- 25) 前出註18文献
- 26) 都築忠夫氏所蔵。下記書籍等に収録。
『大阪狹山市史叢書 絵図に描かれた狹山池』大阪狹山市教育委員会、1992年

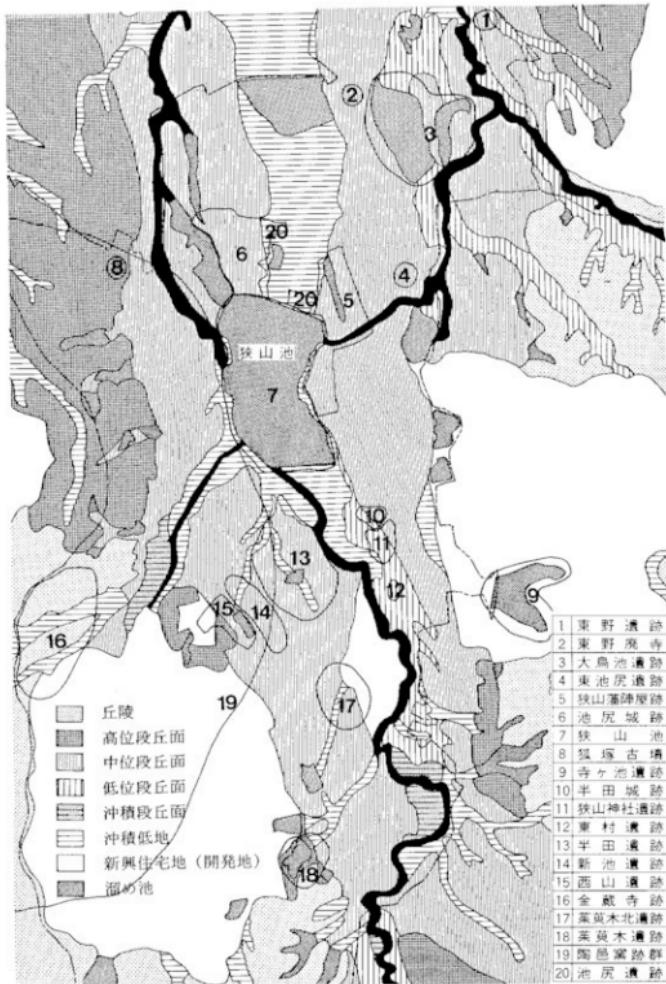


図1 大阪狭山市内の遺跡分布と地形分類

表1 平成20年度発掘調査一覧表

番号	調査期間	遺跡名	位 置	規模m ²	用途	概 要
1	平成20.3.12	池尻城跡	池尻自由丘3-29-148	257.95	個人住宅	本発掘調査を実施。調査区土層断面および底面で精査したが、遺物・遺構を確認することはできなかった。
2	平成20.3.13	陶邑窯跡群 陶器山51号窯	今熊1地内	200.00	農業関係	法面崩落復旧工事実施時に立会調査を実施。MT51号窯全体の崩落土中から、6世紀後葉に生産された須恵器蓋杯・高杯・甕等を採集。
3	平成20.6.4	陶邑窯跡群・ 金蔵寺跡	今熊4-710-54	100.00	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
4	平成20.6.18	池尻城跡	池尻中1-519-2	138.76	個人住宅	本発掘調査を実施。用地中央付近に南北4.0m・東西1.4mの調査区を設定し、バックホーと人力で掘削。地表下28cmで遺構面に達する。調査区北半分において、土坑1とピット1を検出。須恵器小片・台付灯明受皿・染付中碗・鉄釘が出土。
5	平成20.7.1	池尻城跡	池尻中3-595-9	97.75	個人住宅	本発掘調査を実施。用地中央西側に東西3.7m・南北1.2mの調査区を設定し、バックホーおよび人力で掘削。地表下45cm～70cmで地山面に達する。遺物・遺構等なし。
6	平成20.7.24	陶邑窯跡群・ 新池遺跡	茱萸木4-340-7	116.13	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
7	平成20.7.30	陶邑窯跡群	山本東3-13	131.00	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
8	平成20.8.21	茱萸木北遺跡	茱萸木6-879	84.32	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
9	平成20.8.21	陶邑窯跡群	茱萸木1-75、76、90	791.98	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
10	平成20.8.26	陶邑窯跡群・ 金蔵寺	今熊4-710-55	100.01	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
11	平成20.8.28	陶邑窯跡群	今熊3-634-25	101.62	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
12	平成20.9.9	陶邑窯跡群	今熊7-185-4	75.25	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。

番号	調査期間	遺跡名	位 置	規模m ²	用途	概 要
13	平成20.9.18	陶邑窯跡群・金藏寺	今熊4-710-62	114.67	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
14	平成20.9.20	陶邑窯跡群・新池遺跡	茱萸木4-348-2	92.09	個人住宅	擁壁基礎掘削時に立会調査を実施。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
15	平成20.12.24	陶邑窯跡群	今熊5-575、576	379.88	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
16	平成21.2.4～2.5	狹山藩陣屋跡	狹山4-2467、2468-2	136.43	個人住宅	本発掘調査を実施。土坑1・埋甕1・匕首1を検出。近世後期以降の陶器等が出土。遺物・遺構等の報告は次年度に予定。
17	平成21.2.16	陶邑窯跡群	山本中1201-3	148.57	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。
18	平成21.2.25	陶邑窯跡群・金藏寺	今熊4-710-46	133.26	個人住宅	基礎掘削時に立会調査を実施。掘削は盛土内におさまり、遺物・遺構等なし。

表2 平成20年度範囲確認調査一覧表

番号	調査期間	遺跡名	位 置	規模m ²	用途	概 要
19	平成20.4.25	遺跡外	東池尻5-1440-1、2	2522.88	工場新築	用地中央部付近にトレンチを設定。バックホーで掘削して土層断面観察を実施。遺物・遺構等なし。
20	平成21.1.15	遺跡外	茱萸木7-1352-1、1352-2	999.97	共同住宅	建物建設予定地部分にトレンチを設定。バックホーで掘削して土層断面観察を実施。遺物・遺構等なし。



図2 平成20年度調査地位置図

1. 池尻城跡

池尻城は、大阪狭山市池尻中付近に所在し、狹山池北西の中位段丘の縁辺に築かれた平城である。『大阪狭山市埋蔵文化財分布図』¹⁾では南北約500m・東西約300mの範囲を包蔵地「池尻城跡」として記載している。昭和60年に実施された大阪府教育委員会の発掘調査²⁾では、13世紀末～14世紀まで機能していた第1期の居館と、14世紀中頃から15世紀前半に使用された第2期の城郭遺構が確認された。築城当初は周囲に空堀をめぐらせた一辺65mの方形単郭を成し、第2期にこれを拡張する形で北側と東側に独立した郭を設けた縄張りへ発展した³⁾。池尻城の主たる防御設備は、幅3m～5m・深さ1m前後を測る空堀と、段丘崖の落差を利用したものであるが、北方には高さ約1m・幅約4mの土塁跡が検出されており、第2期では、堀と土塁を組み合わせた防御ラインを構築していたようである。14世紀中頃には、要害拠点としての価値がより高まった池尻城の姿が想像される。第2期池尻城構築に際して埋め戻された空堀から、太刀装具の冑金が出土している。冑金の表裏両面は彫りの深い唐草文で飾られ、その中に三目結紋が片面5箇所に配されている。三目結紋は近江源氏の佐々木氏の家紋として著名である。「和田助氏軍忠状」⁴⁾には、貞和3年・正平2年(1347年)の「河州池尻合戦」に引き続いで同年に「藤井寺合戦」があったと記されており、この合戦で佐々木氏泰が討死したことが『太平記』に記されるなど、佐々木氏が河内諸地域の合戦に北朝方として参戦していることが知られている。池尻城が南北朝いずれの拠点として機能していた城郭であるかは定かでないが、池尻城は狭山池の要をなす北堤に近接し、かつ中高野街道を押さえることができる交通の要所に築かれた城郭であり、戦略上の重要地であったことは疑いない。

ところで、本市域には池尻城のほかに、中世城郭「半田城」の存在が推定されている。その城域に関しては、考古学的知見も少ないためにいまだ説が定まらないが、おそらくは狹山神社遺跡の宮山に遺る土塁状遺構で区画された平坦部を本郭としてその北方に郭を連ね、池尻城と同じく中位段丘崖の落差を防御ラインとして利用した城郭であった可能性が高い。本市域の中世史を明らかにするためにも、半田城の実態および池尻城との関連性を解明していくことが望まれる。

註記

1) 『大阪狭山市埋蔵文化財分布図』大阪狭山市教育委員会 2001

2) 『池尻城跡発掘調査概要』大阪府教育委員会 1987

3) 『池尻城と南北朝の動乱』狹山町立郷土資料館 1987

07-01区

本調査区は池尻自由丘三丁目29-148に所在する。個人住宅の建築に伴って発掘調査を実施した。予定建築物の規模に合わせて東西7.5m・南北0.8mの調査区を設定し、機械と人力で掘削を実施した。

地表から深さ約40cmまでは耕土および整地層が続き、その直下で明灰色粘土の地山面に達する。地山面に遺構等は確認できないが、調査区東側で地山面が地表下60cmまで下がっている状況が観察できた。当該調査区は、開析谷を塞き止めた中池の西岸に立地しているため、この地山の落差が、段丘崖の上端の落ちに相当すると理解されよう。

池尻城跡およびその包蔵地内の他時期の遺構は、この開析谷以西ではほとんど確認されておらず、以東の地域に限定される可能性が高いと考える。

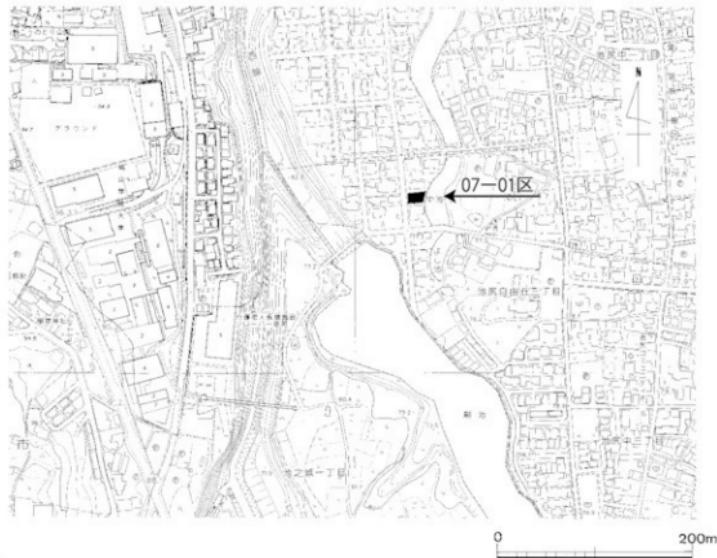


図3 池尻城跡07-01区位置図

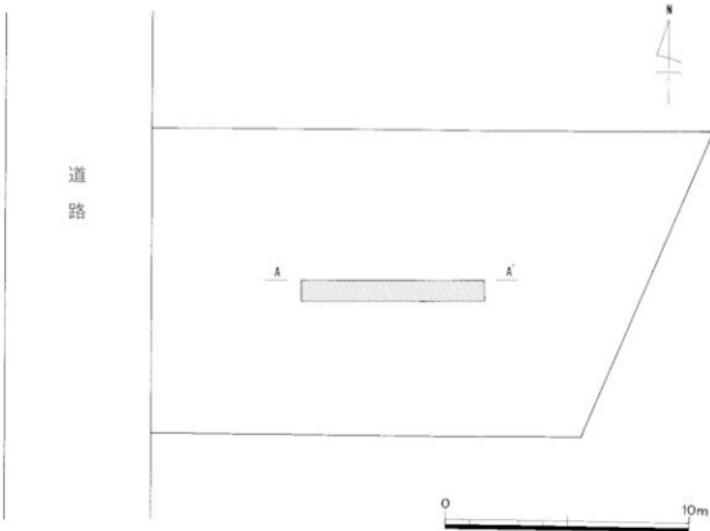


図4 池尻城跡07-01区調査区配置図

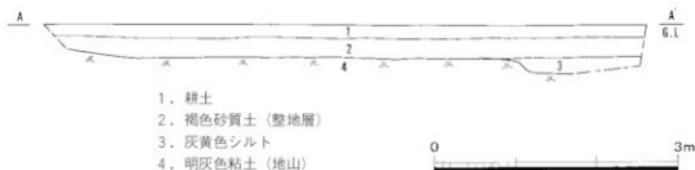


図5 池尻城跡07-01区土層断面図

08-01区

本調査区は池尻中一丁目519-2に所在する。個人住宅の建築に伴って事前発掘調査を実施した。用地中央付近に南北4.0m・東西1.4mの調査区を設定し、機械および人力で掘削をおこなった。地表下28cmで遺構面を形成する明黄色砂質土層の上面に達するが、調査区の南半分では近現代の整地による擾乱が激しい。調査区北半分において、土坑1とピット1を検出した。

遺物の大半は、土坑1の埋土中から出土したものである。遺物の状況から、これらの遺構は近世後半以後に形成されたものと推定される。

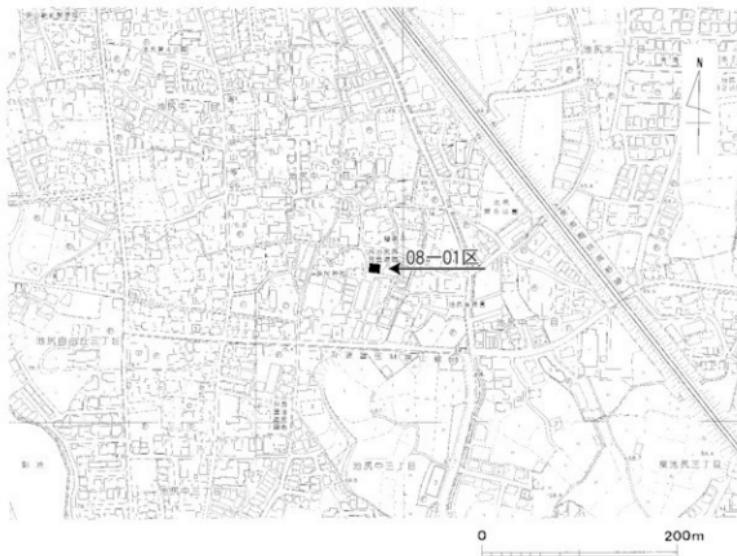


図6 池尻城跡08-01区位置図

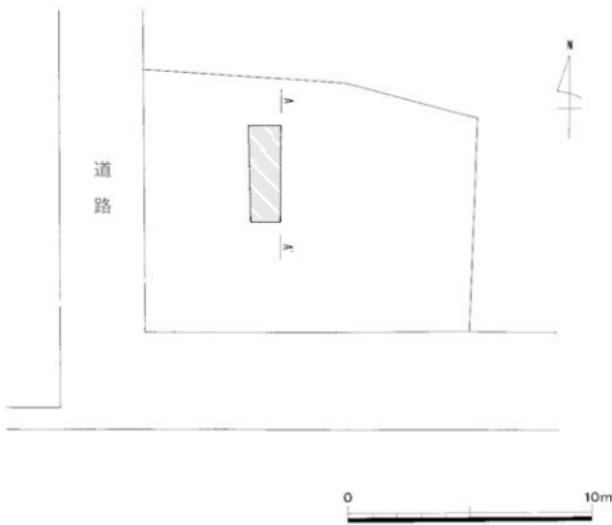
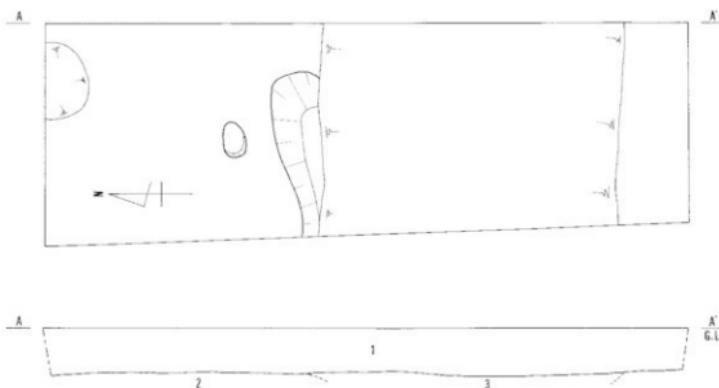


図7 池尻城跡08-01区調査区配置図



- 1. 整地層
- 2. 明黄色砂質土
- 3. 撥乱（暗褐色砂質土）



図8 池尻城跡08-01区遺構断面図

池尻城跡08-01区で出土した遺物のうち、図化可能であったものは下図の計7点である。

1は須恵器の破片で、器種は提瓶と思われる。色調は灰色で、外面に回転ヘラ削り調整が認められる。2は土師質の台付灯明受皿の高台部分で、底径4.6cm・残存高2.2cmを測る。3は瓦質の小片で器種は不明。4は染付中碗で、高台径3.6cm・残存高6.0cmを測る。5・6は染付で器種不明。7は鉄釘で長さ9.3cm・径0.5cmを測る。これらの遺物は近世後半～近代のものと思われる。

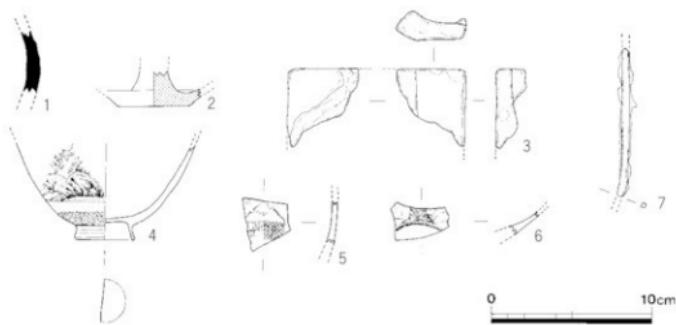


図9 池尻城跡08-01区出土遺物

08-02区

本調査区は池尻中三丁目595-9に所在する。個人住宅の建築に伴って事前発掘調査を実施した。用地中央西側に東西3.7m・南北1.2mの調査区を設定し、機械および人力で掘削をおこなった。地表下45cm～70cmまで整地層が続き、その直下で淡黄色粘土層の地山面に達する。地山上面で遺構検出を試みたが、遺構・遺物を検出することはできなかった。

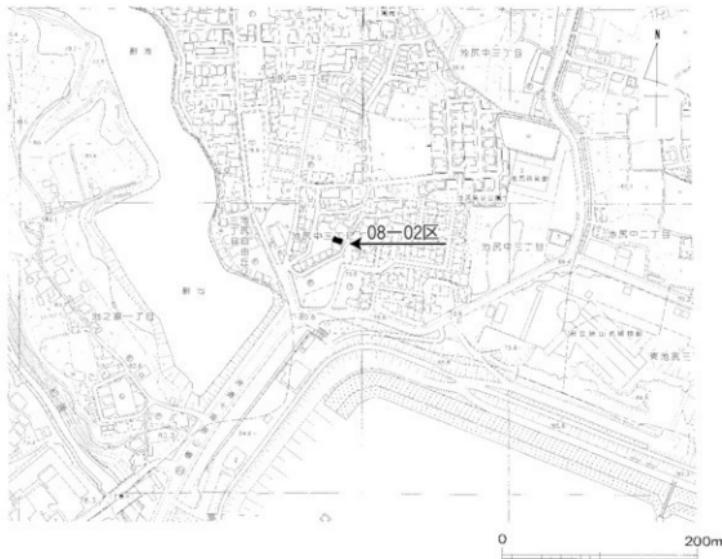


図10 池尻城跡08-02区位置図

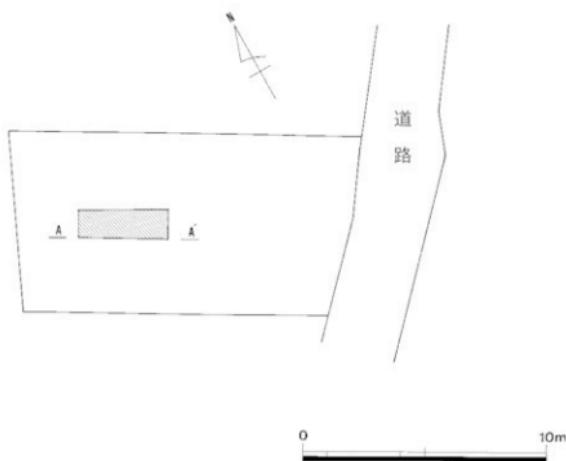


図11 池尻城跡08-02区調査区配置図

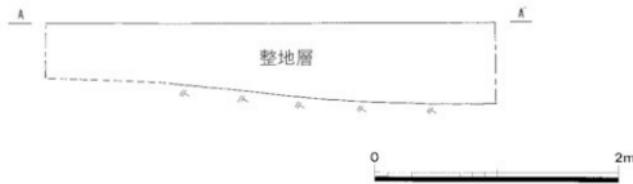


図12 池尻城跡08-02区土層断面図

2. 陶邑窯跡群

泉北丘陵を中心とした東西約15km・南北約9mの広大な地域に分布する須恵器生産遺跡は、陶邑窯跡群と呼称されている。その埋蔵文化財包蔵地の名称は、日本書紀崇神天皇条にみられる「茅渟県陶邑」の記述によるものである。この広大な陶邑窯跡群は、調査・研究の便宜上、水系ごとに大野池(ON)地区・谷山池(TN)地区・梅(TG)地区・光明池(KM)地区・高藏寺(TK)地区・富藏(TM)地区・陶器山(MT)地区・狹山池(SY)地区に大別されている。陶邑窯跡群全体で確認されている窯跡の総数は850基以上に達する。

大阪狭山市域全体は、この広大な陶邑窯跡群東端の一部に含まれ、旧天野川左岸の段丘斜面および丘陵斜面にMT地区の須恵器窯が、右岸から羽曳野丘陵の間の段丘斜面にSY地区の須恵器窯が造営されている。埋蔵文化財包蔵地として範囲指定している陶邑窯跡群は、MT地区のみに限定しているが、範囲指定を行わずに各窯跡ごとのポイントで埋蔵文化財包蔵地として保護しているSY地区も学術的には陶邑窯跡群に包括されるものである。だが、本発掘調査事業においては、概ねMT地区内に設定した埋蔵文化財包蔵地の範囲をもって「陶邑窯跡群」と呼称しているのでご了解いただきたい。

分布調査と発掘調査によって、本市域で確認されている須恵器窯跡は96基におよぶ。SY地区およびMT地区の東端における須恵器窯は、そのほとんどが中位段丘崖の段差を利用して造営された。旧来のままの自然地形を保持している場所もあるが、市内の開発が進んだ結果、ほとんどの窯跡は、溜め池の岸でコンクリート護岸に覆われていたり、宅地化した地域に含まれていたりするため、その遺存状態を容易に確認することができない。このため、個人住宅建築等の小規模開発の機会を捉えて発掘調査を実施し、その実態解明に努めている。

陶器山51号窯 (MT51号窯)

陶器山51号窯(以下、MT51号窯と略記)は、今熊1丁目地内に所在する須恵器窯跡である。三屋川左岸の中位段丘崖に立地し、現在、大阪狭山市立西幼稚園の西側にある水田の西方に位置する。水田に西側の崖斜面から土が部分的に崩落し、これを木杭と板材で防ぐ土留め工事が実施された。土留めの施工に先立って行われた、崩落土の除去工事に立ち会い、遺物の採集と現況観察に努めた。

東向きの段丘斜面の比高差は5m～6mあり、斜面上の平坦面から下の水田面までの直線距離は約10mを測り、登窯1基が遺存可能な自然地形が残っている。ただし、斜面の部分崩落も発生している現状から判断すれば、窯体の一部は破損している可能性が高いだろう。

崩落土の除去は、14回のように、南北約20m・東西約2mの範囲内で実施された。斜面裾部に堆積した土は、窯の焚口あるいは燃焼部のものとおぼしき暗灰色灰土と橙色粘土が主体であった。また、崩落していない斜面の土を観察すると、南北2箇所で橙色粘土層のブロックを確認することができる。2次移動を受けていない確証はないが、MT51号窯の遺存を検証する上で参考となろう。

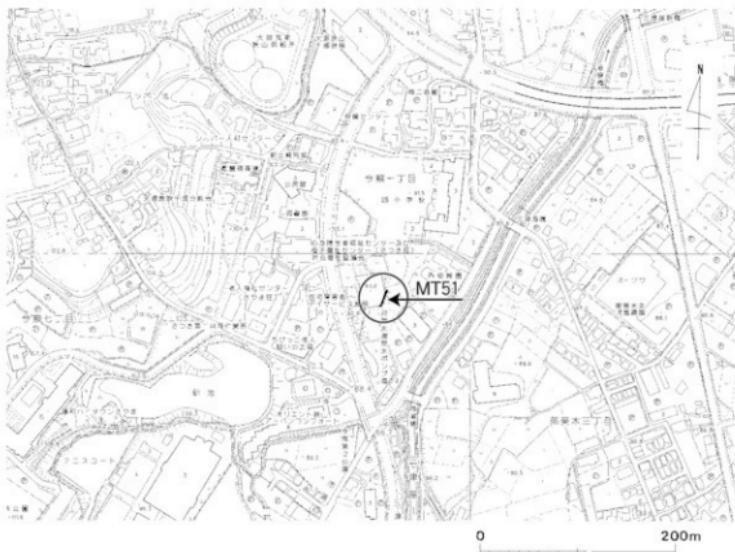


図13 陶器山51号窯(MT51)調査区位置図

また、崩落土除去時の観察では、斜面下の水田耕作土直下で、黒色灰土層の広がりが確認された。水田部分の平坦面、南北約20m・東西約15mの範囲内で灰原が遺存しているものと思われる。当該地付近の開発時には、斜面部と併せて注意を要するものと思われる。

立会調査で採集したMT51号窯の須恵器のうち図化可能なもの53点は、15図～17図に図示した。蓋杯・有蓋高杯・甌・広口壺・脚付長頸壺蓋・甕などの器種が認められる。詳しい検討はまだ実施していないが、採集した資料の杯身法量数値は、口径が10cm～13.5cm、器高が概ね4cm前後に分布している。また、たちあがり形態の計測値は、たちあがり高が0.8cm～1.3cm、たちあがり角度が19°～41°に分布している状況が看取できる。このような杯身の法量と形態から、MT51号窯で生産された須恵器は、TK43型式～TK209型式に併行するものと理解される。窯体床面の状況や灰原の堆積状況も不明であるため、両型式期を通じて長期間の操業が継続されたのか、あるいはその移行期において短期間のみ、生産がなされたのかは判断しがたい。

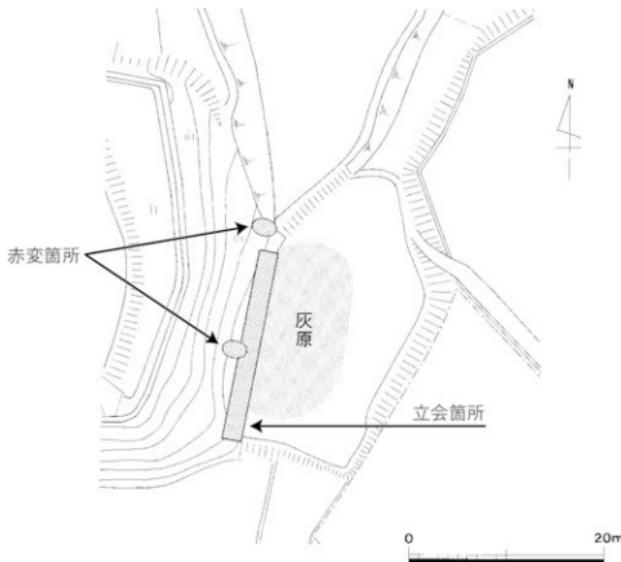


図14 陶器山51号窯(M T 51)立会調査結果概念図

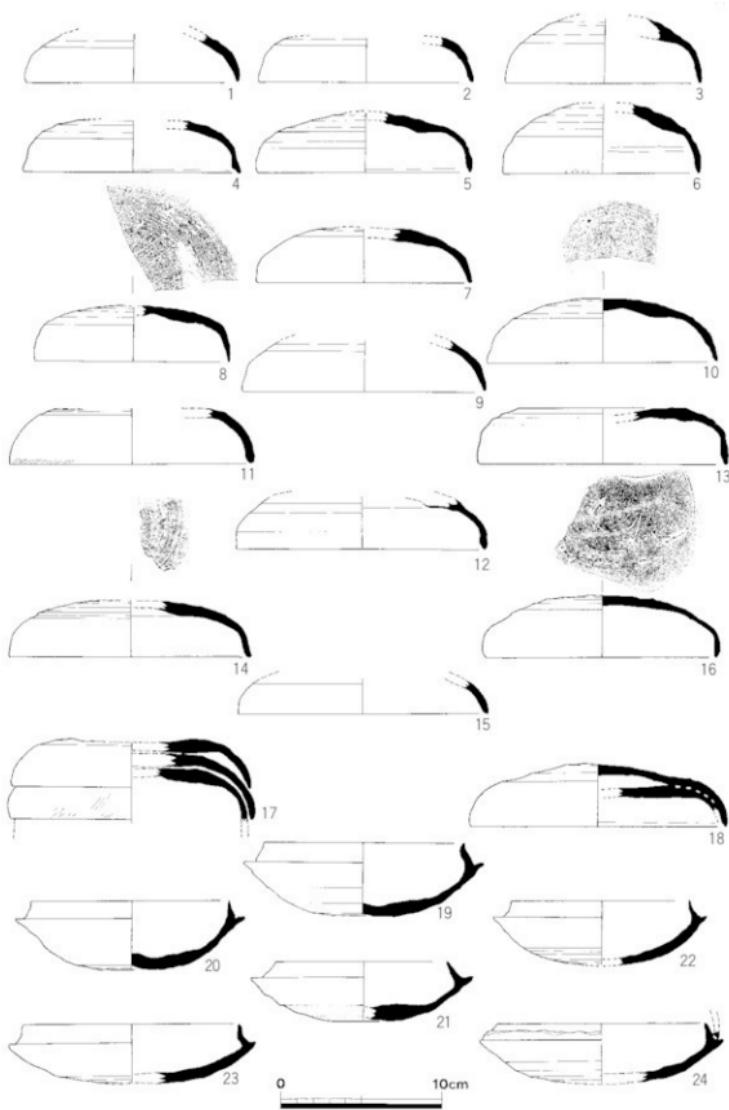


図15 陶器山51号窯(M T 51)採集遺物(1)

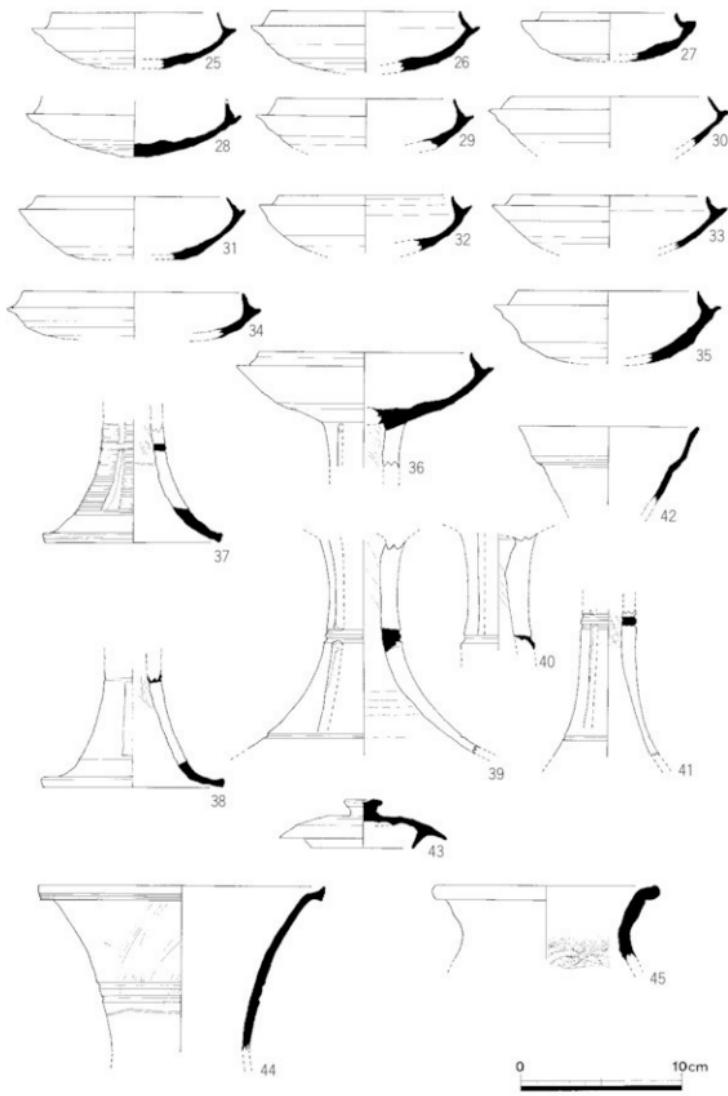


図16 陶器山51号窯(M T 51)採集遺物(2)

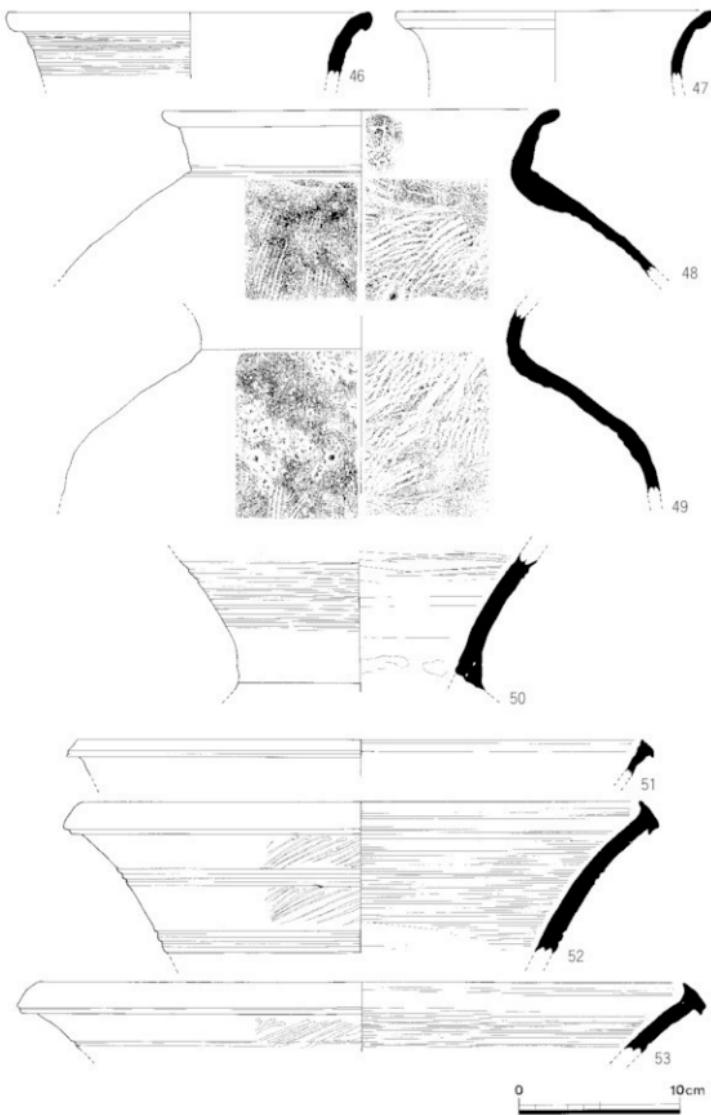


図17 陶器山51号窯(M T 51)採集遺物(3)

表3 陶器山51号窯(MT51)崩落土内採集遺物観察表

器種	図面 図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯蓋	15-1	U1#133 残存高3.0	体部・口縁部は下外方にやや内傾して下る。端部は丸い。天井部はやや低い。天井部中央欠損。	マキアグ、ミズビキ成形。天井部外面、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：内・灰青色。外・灰褐色。胎土：薄。1mmの長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/16。反転復元。
杯蓋	15-2	U1#134 残存高2.8	体部・口縁部は下外方に下る。端部はやや丸い。天井部はやや低い。天井部中央大欠損。	マキアグ、ミズビキ成形。天井部外面3.5、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：内・灰褐色。外・明灰色。胎土：薄。3mm以下の長石を若干含む。焼成：良好。残存：1/16。反転復元。外面に自然釉付着。
杯蓋	15-3	U1#122 残存高4.0	体部・口縁部は下外方に下る。端部は丸い。天井部はやや高い。天井部中央欠損。	マキアグ、ミズビキ成形。天井部外面5.6、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：灰。胎土：薄。3mmの長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/5。反転復元。
盖蓋	15-4	U1#136 残存高3.2	体部・口縁部はやや下外方に下る。端部は丸く平ら。天井部中央欠損。	マキアグ、ミズビキ成形。天井部外面5.5、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：灰。胎土：薄。3mmの長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/8。反転復元。
杯蓋	15-5 4-5	U1#134 残存高3.7	体部・口縁部は下外方に下る。端部はやや丸い。天井部は低く平に近い。天井部中央欠損。	マキアグ、ミズビキ成形。天井部外面4.5、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：灰。胎土：薄。4mmの長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：2/5。反転復元。
杯蓋	15-6	U1#122 残存高4.4	体部・口縁部はやや内傾して下外方に下る。端部は丸い。天井部は高くやや丸い。天井部中央欠損。	マキアグ、ミズビキ成形。天井部外面4.5、回転ヘラ削り調整。口縁部外側一部、天井部内側一部。天井部底あり。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：灰。胎土：薄。2mmの長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/6。一部合成復元。
杯蓋	15-7 4-7	U1#134 残存高3.4	体部・口縁部は下外方に下る。端部は丸い。天井部は低く平ら。天井部中央大欠損。	マキアグ、ミズビキ成形。天井部外面2.3、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、左方向。色調：暗青灰色。胎土：薄。3mm以下の長石を若干含む。焼成：良好。残存：1/6以下。反転復元。
杯蓋	15-8 4-8	U1#122 残存高3.45	体部・口縁部は下外方に下る。端部はやや丸い。天井部は低く平ら。天井部中央大欠損。	マキアグ、ミズビキ成形。天井部外面9.0、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：内・灰。外・明灰色。胎土：薄。3mmの長石を若干含む。チャートを含む。1mmの石英をわずかに含む。焼成：良好。残存：1/5。ヘル記号：天井部外面に「-」あり。一部合成復元。
杯蓋	15-9	U1#152 残存高3.2	体部・口縁部は下外方に下る。端部は丸い。天井部は低い。天井部中央欠損。	マキアグ、ミズビキ成形。天井部外面3.5、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：暗青灰色。天井部外面に「-」あり。一部合成復元。
杯蓋	15-10 4-10	U1#144 残存高4.0	体部・口縁部は下外方に下る。端部はやや丸い。天井部は低く平に近い。天井部中央欠損。	マキアグ、ミズビキ成形。天井部外面2.3、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：灰。胎土：薄。2mmの長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/16。反転復元。外面に窓塵片着。
杯蓋	15-11 4-11	U1#150 残存高3.5	体部・口縁部は下外方に下る。端部は丸い。天井部は低く平ら。天井部中央大欠損。	マキアグ、ミズビキ成形。天井部外面2.3、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：暗青灰色。胎土：薄。2mmの長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/8。反転復元。口縁部外面に自然釉付着。
杯蓋	15-12 4-12	U1#154 残存高3.1	体部は下外方に下り、口縁部は下外方に下る。天井部は低く平に近い。天井部中央欠損。	マキアグ、ミズビキ成形。天井部外面2.1、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：暗青灰色。胎土：薄。2mmの長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/6以下。反転復元。
杯蓋	15-13 5-13	U1#154 残存高3.5	体部・口縁部は下外方に下る。端部は丸い。天井部は低く平ら。天井部中央欠損。	マキアグ、ミズビキ成形。天井部外面2.3、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：灰。胎土：薄。2mmの長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/6。反転復元。
杯蓋	15-14 5-14	U1#150 残存高3.5	体部・口縁部は下外方に下る。端部は丸い。天井部は低く平ら。天井部中央大欠損。	マキアグ、ミズビキ成形。天井部外面2.3、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：暗青灰色。胎土：薄。6mmの長石を若干含む。2mmの長石を含む。焼成：良好。残存：1/4以下。ヘル記号：天井部外面に「-」あり。反転復元。
杯蓋	15-15	U1#156 残存高2.1	体部・口縁部は下外方に下る。天井部欠損。	マキアグ、ミズビキ成形。天井部外面1.3、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：暗青灰色。胎土：薄。2mmの長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/8以下。反転復元。口縁部外面に自然釉付着。
杯蓋	15-16 4-16	U1#144 残存高3.9	体部・口縁部はやや内傾して下外方に下る。端部は丸い。天井部は低く平らに近い。天井部中央大欠損。	マキアグ、ミズビキ成形。天井部外面2.3、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：灰。胎土：薄。2mmの長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/2。反転復元。天井部外面に「-」あり。外面に自然釉付着。
杯蓋	15-17 5-17	残存高4.3	杯蓋3点が焼成時の重ね焼きの状態で接着している。いずれの天井部も低く平ら。	マキアグ、ミズビキ成形。回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：暗青灰色。胎土：薄。3mm以下の長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：2/5。反転復元。上個体の大井部外面に窓塵片着。内面灰青色。
杯蓋	15-18 5-18	U1#158 器底3.9	杯蓋2点が焼成時の重ね焼きの状態で接着している。いずれの天井部も低く平ら。上側部・体部・口縁部は下外方に下る。端部内側に赤土にあまい跡を残す。	マキアグ、ミズビキ成形。天井部外面3.4、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：灰。胎土：薄。2mmの長石を含む。1mmの石英を含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：全1/2。上個体外面に土器片着。内面灰青色。
杯身	15-19 5-19	U1#124 受部径15.0 高さ4.6 高さ13 T角度28°00'	たちあがりは内傾したも端部附近で直立する。受部は外上方にのび、端部は丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。底体部はやや浅く、底部はほぼ平ら。	マキアグ、ミズビキ成形。底部外面4.5、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：灰。胎土：薄。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/4。反転復元。
杯身	15-20	U1#122 受部径14.2 高さ4.3 高さ11 T角度19°30'	たちあがりは内傾して上方にのびる。端部はやや丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。底体部はやや浅く、底部は平ら。	マキアグ、ミズビキ成形。底部外面3.7、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	クロコ回転、右方向。色調：灰褐色。胎土：薄。2mmの長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/4。一部合成復元。

※丁高はたちあがり高を、T角度はたちあがり角度を示す。

器種	図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯身	15-21 5-21	11.0±10.6 受部φ13.8 残存高3.7 T高1.1 T角度40°15'	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。底体部は浅く、底部ははばら。底部中央欠損。	マキアグ。ミズビキ成形。底部外面4.7、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：黒。3mm以下の長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/4。反転復元。内外面に窓型片付着。外側に自然釉付着。灰かぶり。
杯身	15-22 5-23	11.0±11.0 受部φ13.3 残存高4.0 T高1.1 T角度33°30'	たちあがりは内傾してやや上方にのびる。端部はやや丸い。受部は外上方に近くのび、端部は丸い。底体部は浅く、底部はやや丸い。底部中央欠損。	マキアグ。ミズビキ成形。底部外面3.7、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：黒。2mmの長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/7。反転復元。
杯身	15-23 5-23	11.0±11.4 受部φ15.2 残存高3.7 T高1.2 T角度25°30'	たちあがりは内傾したのも中位では直立する。端部は丸い。受部は外上方に近くのび、端部は丸い。底体部は浅く、底部は平ら。底部中央欠損。	マキアグ。ミズビキ成形。底部外面1.2、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰褐色。胎土：黒。2mmの長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/6以下。反転復元。
杯身	15-24 5-24	11.0±11.0 受部φ15.2 残存高3.6 T高1.0 T角度30°30'	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。底体部は浅く、底部ははばら。底部中央欠損。	マキアグ。ミズビキ成形。底部外面2.3、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰褐色。胎土：黒。5mmの長石をわずかに含む。2mmの長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/6。反転復元。受部上面に素焼き地の片端着。底面外面。受部上面に自然釉付着。
杯身	16-25 5-25	11.0±10.2 受部φ12.6 残存高3.5 T高1.0 T角度22°30'	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。底体部は浅く、底部ははばら。底部中央欠損。	マキアグ。ミズビキ成形。底部外面3.5、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰褐色。胎土：黒。2mmの長石を若干含む。1mm以下の黄褐色の長石を含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/5。反転復元。外側に自然釉付着。外画面かぶり。
杯身	16-26 5-26	11.0±11.8 受部φ14.3 残存高3.8 T高1.1 T角度36°00'	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。底体部は浅く、底部はやや丸い。底部中央欠損。	マキアグ。ミズビキ成形。天井部外面2.3、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰褐色。胎土：黒。1mmの長石を含む。焼成：良好。残存：1/5。反転復元。「天井部内外斜面かぶり」。
杯身	16-27 5-27	11.0±10.4 受部φ10.8 残存高3.0 T高0.5 T角度35°30'	たちあがりはややや反対しつつ内傾してのび、端部は丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。底体部は浅く、底部は平ら。底部中央欠損。	マキアグ。ミズビキ成形。底部外面3.7、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：黒。3mm以下の長石を若干含む。2mmの長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/5。反転復元。外側に窓型片付着。外側灰かぶり。
杯身	16-28 5-28	11.0±13.4 残存高3.6	たちあがりは内傾して上方にのびる。受部は外上方に近くのび、端部は丸い。底体部は浅く、底部はやや丸い。13mm底欠損。	マキアグ。ミズビキ成形。底部外面3.7、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰褐色。胎土：黒。3mm以下の石英を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/4。反転復元。内外面に窓型片付着。灰かぶり。
杯身	16-29 5-29	11.0±11.0 受部φ13.5 残存高3.1 T高1.1 T角度31°30'	たちあがりは内傾してのび、端部はやや丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。底体部は浅く。底部中央欠損。	マキアグ。ミズビキ成形。底部外面、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：内：明灰色。外：暗灰褐色。胎土：黒。3mm以下の長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/8。一部合成復元。底部外面に窓型片付着。自然釉付着。外側灰かぶり。
杯身	16-30 5-30	11.0±12.4 受部φ15.0 残存高3.2 T高0.9 T角度35°00'	たちあがりは内傾してのび、端部はやや丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。底体部は浅く。底部はやや深い。底部大手欠損。	マキアグ。ミズビキ成形。底部外面4.5、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：黒。3mm以下の石英を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/6。反転復元。
杯身	16-31 5-31	11.0±11.8 受部φ14.0 残存高3.0 T高0.8 T角度41°45'	たちあがりは内傾してのび、端部はやや丸い。全周は外方に近くのび、端部は丸い。底体部は浅く。底部はやや深く、底部は平ら。底部中央欠損。	マキアグ。ミズビキ成形。底部外面4.7、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：内：灰褐色。外：白色。胎土：黒。3mm以下の長石を若干含む。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/4。反転復元。外側画面に素焼き付着。上端片着。
杯身	16-32 5-32	11.0±10.8 受部φ13.3 残存高3.5 T高0.8 T角度39°30'	たちあがりは内傾してのびたう端部付近でやや上方にのびる。端部は丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。底体部は浅く、底部中央欠損。	マキアグ。ミズビキ成形。底部外面、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：黒。2mmの長石を若干含む。焼成：良好。残存：1/24。反転復元。内外面灰かぶり。
杯身	16-33 5-33	11.0±12.0 受部φ14.8 残存高3.3 T高0.8 T角度36°15'	たちあがりは内傾してのび。端部はやや丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。底体部は浅く。底部中央欠損。	マキアグ。ミズビキ成形。底部外面、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：黒。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/16。反転復元。受部灰かぶり。
杯身	16-34 5-34	11.0±13.6 受部φ15.8 残存高2.9 T高1.0 T角度32°00'	たちあがりは内傾してのび。端部は丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。底体部は浅く、底体部は平ら。底部中央欠損。	マキアグ。ミズビキ成形。底部外面、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：青灰褐色。胎土：黒。2mmの長石を若干含む。焼成：良好。残存：1/6。反転復元。13mm底灰かぶり。受部に自然釉付着。
杯身	16-35 5-35	11.0±11.2 受部φ14.2 残存高3.1 T高1.1 T角度34°00'	たちあがりは内傾してのび。端部付近でやや上方にのびる。端部は丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。底体部はやや深く。底体部はやや丸い。底部中央欠損。	マキアグ。ミズビキ成形。底部外面5.6、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：黒。チャートを含む。焼成：良好。残存：1/6。反転復元。若干焼けむき。
高杯	16-36 6-36	11.0±13.3 受部φ16.2 残存高2.9 T高1.2 T角度37°30'	たちあがりは内傾してのび。端部付近でやや上方にのびる。端部は丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。底体部はやや深く。底体部はやや丸い。底部中央欠損。脚部は下方に3方角の正方形スカルプを有する。脚部2/3以下欠損。	マキアグ。ミズビキ成形。底部外面2.3、回転ヘラ削り調整。脚部内面にじばり目あり。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：黒。チャートを含む。焼成：良好。合成復元。

器種	画面 図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
高杯	16-37 6-37	脚底径5.4 残存高7.6	脚部上方1/3以上欠損。脚部は外反して下方向に下る。脚部は内側に外傾する凹面を成し、縫部内側で設置する。脚部中位に2条の非常に高い沈縫をめぐらす。2段3方向に長方形スカンを有する。	マキアゲ、ミズビキ成形。脚部前面4.5、カキ目調整。他の内側に2mmの長い石を若干含む。縫部内側には回転ナナゲ調整。脚部内面にしばり目あり。	クロロ回転:右方向。色調:青灰色。胎土:密。2mmの長い石を若干含む。焼成:良好。残存:脚部1/5。反転復元。外面灰かぶり。自然釉付着。
高杯	16-38 6-38	脚底径11.2 残存高7.5	脚部中位以上欠損。脚部は外反して下方向に下る。脚部は内側に外傾する凸面を成し、縫部内側で設置する。脚部中位に1条の非常に高い沈縫をめぐらす。2段2方向に長方形スカンを有する。	マキアゲ、ミズビキ成形。脚部前面4.5、カキ目調整。脚部内面にしばり目あり。	クロロ回転:右方向。色調:青灰色。胎土:密。2mmの長い石を若干含む。チャートを含む。焼成:良好。残存:脚部2/5。反転復元。外面灰かぶり。自然釉付着。
高杯	16-39 6-39	残存高13.5	脚部中位以上欠損。脚部は外反して下方向に下る。脚部は内側に外傾する凸面を成し、縫部内側で設置する。脚部中位に1条の非常に高い沈縫をめぐらす。2段3方向に長方形スカンを有する。	マキアゲ、ミズビキ成形。脚部前面4.5、カキ目調整。脚部内面にしばり目あり。	色調:灰色。胎土:密。2mmの長い石を含む。焼成:良好。残存:脚部復元。外面灰かぶり。
高杯	16-40	残存高7.2	脚部は下方に下る。脚部中位以下欠損。中位に2条の高い沈縫をめぐらす。縫部上方に1条の非常に高い沈縫をめぐらす。2段3方向に長方形スカンを有する。	マキアゲ、ミズビキ成形。脚部前面4.5、カキ目調整。脚部内面にしばり目あり。	色調:灰色。胎土:密。チャートを含む。焼成:良好。残存:1/10以下。反転復元。外面に自然釉付着。
高杯	16-41	残存高9.2	脚部中位以上欠損。脚部は下方に下ったのち、縫部上方で外方に傾いて下る。脚部欠損。中位に2条の高い沈縫をめぐらす。縫部上方に1条の非常に高い沈縫をめぐらす。2段3方向の長方形スカンを有する。	マキアゲ、ミズビキ成形。脚部前面4.5、カキ目調整。脚部内面にしばり目あり。	色調:灰色。胎土:密。2mmの長い石を含む。焼成:良好。チャートを含む。焼成:良好。残存:縫部1/3。反転復元。外面灰かぶり。
瓶	16-62	口径6.2 残存高4.9	縫部下平手以下欠損。脚部は上外方にのび、口縫部下でや陂を成す。口縫部は上外方にのび、縫部は丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。回転ナナゲ調整。	クロロ回転:右方向。色調:青灰色。胎土:密。2mmの長い石を若干含む。焼成:良好。残存:1/6以下。反転復元。外面灰かぶり。
壺蓋	16-63 6-63	口徑6.3 縫み幅2.5 身高3.0 口まみ高1.1	天井部は外方にのび、体部は下方に下る。縫部は丸い。内面に内巻するかえんを有する。かえりで接続し、縫部は丸い。天井部外側中に縫み平なつまみを付す。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面3.4、回転ヘラ削り調整。他の回転ナナゲ調整。他の回転ナナゲ調整。	クロロ回転:右方向。色調:青灰色。胎土:密。チャートを含む。焼成:良好。残存:1/4。反転復元。かえり灰かぶり。若干書き走り。
広口壺	16-64	口徑18.0 残存高10.4	縫部下平手以下欠損。口縫部は上外方に外反して下る。縫部はやや外傾する平手を成す。縫部は丸い。頭部部外側中に縫み平なつまみを付す。	マキアゲ、ミズビキ成形。他の外側、チャート調整。他の回転ナナゲ調整。	色調:淡灰褐色。胎土:密。2mmの長い石を含む。チャートを含む。焼成:良好。残存:1/4。反転復元。
甕	16-65 6-65	口徑13.8 残存高4.5	口縫部は外反して上外方にのび、口縫部下で外方にのびのち、内側して上外方にのびる。縫部以下欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。胎土内面、青色泥タッキ。他の回転ナナゲ調整。	色調:暗灰。胎土:密。2mmの長い石を含む。1mmの石を若干含む。チャートを含む。焼成:良好。残存:1/6。反転復元。外面灰かぶり。
甕	17-96	口徑22.6 残存高4.1	口縫部は上外方にのび、口縫部下で下外方にのび、内側して上外方にのびる。縫部下以下欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。縫部外面、カキ目調整。他の回転ナナゲ調整。	色調:灰色。胎土:密。4mmの長い石をわざわざに含む。焼成:良好。残存:1/6。反転復元。内面灰かぶり。1/6以下。外面自然釉付着。
甕	17-97	口徑19.6 残存高4.3	口縫部は外反して上外方にのび、口縫部下で外方にのびのち、縫部は丸い。縫部下以下欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。回転ナナゲ調整。	色調:暗青灰色。胎土:密。3mmの長い石を若干含む。焼成:良好。残存:1/6。反転復元。内面灰かぶり。
甕	17-98	口徑24.4 残存高10.1	口縫部は上外方にのび、口縫部下で下外方にのび、縫部は丸い。縫部は外下方に下る。体部は丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。縫部外面、青色泥タッキ。縫部内面、カキ目調整。他の回転ナナゲ調整。	色調:灰色。胎土:密。3mmの長い石を若干含む。焼成:良好。残存:1/6。反転復元。内面灰かぶり。
甕	17-99	基部径19.8	縫部は上外方に外反してのびる。縫部上半以上丸い。縫部は外下方に下り、体部は下方に下る。縫部下平手以下欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。縫部外面、青色泥タッキ。縫部内面、カキ目調整。	色調:灰色。胎土:密。3mmの長い石を若干含む。焼成:良好。残存:1/5。反転復元。
甕	17-100	基部径15.1 残存高8.3	口縫部欠損。口縫部はやや外反して上外方にのびる。基部以下欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。縫部外面、カキ目調整。他の回転ナナゲ調整。	色調:淡灰褐色。胎土:密。チャートを含む。焼成:良好。反転復元。
甕	17-101	口徑35.4 残存高2.3	口縫部は上外方にのび、口縫部下で下外方に下り、上方にのびる。縫部は丸く、内面でや陂を成す。	マキアゲ、ミズビキ成形。回転ナナゲ調整。	色調:灰色。胎土:密。3mmの長い石を若干含む。焼成:良好。残存:1/5。反転復元。
甕	17-102	口徑15.0 残存高9.5	口縫部は外反して上外方にのび、口縫部下で下外方に下り、凹面を成して上外方にのびる。縫部は丸く、縫部上方1/3と1/2の沈縫をめぐらす。縫部上方1/3の沈縫の上に横書き斜行沈縫を有する。縫部上方1/3以下欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。口縫部内面、カキ目調整。他の回転ナナゲ調整。	クロロ回転:右方向。色調:淡灰褐色。胎土:密。1mmの長い石をわざわざに含む。チャートを含む。焼成:良好。残存:1/10以下。反転復元。外面灰かぶり。
甕	17-103	口徑10.2 残存高4.3	口縫部は上外方にのび、口縫部下で下外方にのび、凹面を成して上外方にのびる。縫部は丸く、縫部上方1/3と1/2の沈縫をめぐらす。縫部上方1/3の沈縫の上に横書き斜行沈縫を有する。縫部上方1/3以下欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。口縫部内面、カキ目調整。他の回転ナナゲ調整。	色調:灰色。胎土:密。チャートを含む。焼成:良好。残存:1/10以下。反転復元。

08-01区

本調査区は今熊五丁目575、576に所在する。当該地は陶器山丘陵から狭山池主谷へむけて北東にのびる開析谷の左岸斜面に立地する。個人住宅の建築に伴い、事前発掘調査を実施した。用地南側は急な斜面の上端となっているため、コンクリート擁壁と盛土で整形されており、調査は用地北端中央で行うこととした。東西7.1m・南北0.8mの調査区を設定し、機械および人力で掘削をおこなった。地表下18cmまで整地層が続き、その下層に厚さ15cm～20cm程度の黄褐色砂礫土層が層位し、その直下で明黄色シルト層の地山面に達する。地山上面で遺構検出を試みたが、遺構・遺物を検出することはできなかった。

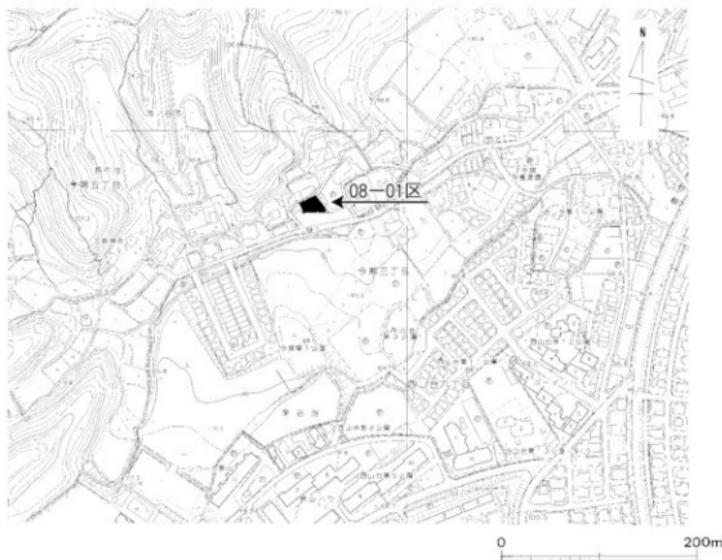


図18 陶邑窯跡群08-01区調査区位置図

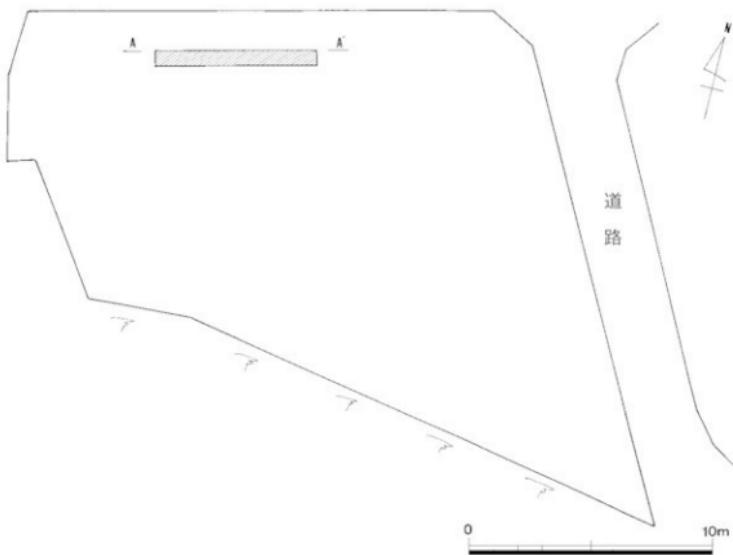


図19 陶邑窯跡群08-01区調査区配置図

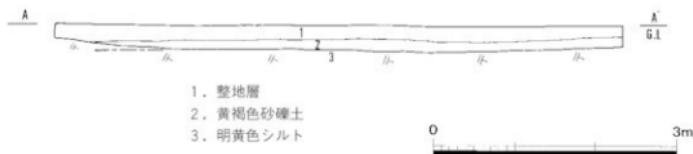


図20 陶邑窯跡群08-01区土層断面図

3. 範囲確認調査

080425区

本調査区は東池尻五丁目1440-1、2に所在する。埋蔵文化財包蔵地の範囲外にあたる。ただし、当該地周辺は、中世の興福寺領の莊園である狹山莊の中核域「庄司庵」の存在が地名から想定されている地域であるため、工場の建て替えに先立ち、2522.88m²を対象に、範囲確認のための試掘調査を実施した。

用地中央部南側において東西方向に長さ13m・幅0.8mのトレンチを設定し、土層断面観察を行った。その結果、地表下70cm~80cmで明灰色粘土から成る地山層を確認し、その直上に厚さ10cm程度の暗灰色シルト層から成る耕土を確認した。この土層より上は、すべて工場旧建屋建設時の整地層である。なお、トレンチ西端では、厚さ5cm程度の暗灰褐色砂質土層をごく一部で確認した。この土層は、遺構面上の包含層となりうる可能性をもつものと思われるが、遺物の包含は認められなかった。

今回の範囲確認調査では「庄司庵」遺跡の新規発見につながる遺構・遺物を確認することはできなかつたが、当該地南方および西方における開発時は、引き続き範囲確認に努める必要があろう。

090115区

本調査区は茱萸木七丁目1352-1、2に所在する。埋蔵文化財包蔵地の範囲外にあたる。長屋住宅の建設に先立ち、999.97m²を対象に、範囲確認のための試掘調査を実施した。

同開発の土地利用計画で建物建築部分として予定されている箇所の中央で東西方向に長さ5m・幅0.7m・深さ0.9mのトレンチを設定し、土層断面観察を行った。地表下40cmまで整地層が続き、その下層に厚さ20cmの暗灰色粘土があり、その直下、地表下75cmで灰青色粘土の地山面に達する。この地山面およびその上層において、遺構や遺物の包含を確認することはできなかつた。

ま　と　め

個人住宅等の開発を対象とした平成20年度の埋蔵文化財調査は、いずれも小規模な発掘調査や立会調査であった。今年度は、池尻城跡と陶邑窯跡群において事前発掘調査を実施し、これらの整理を行うとともに、前年度末に立会調査を実施した陶器山51号窯の採集遺物の整理を実施した。また、埋蔵文化財包蔵地外において、範囲確認のための試掘調査を2箇所で実施した。さらに、2月には、狹山藩陣屋跡08-01区の発掘調査を実施し、土坑等の埋土内から近世遺物が多く出土したが、内業調査にはさらなる調査期間が必要であるため、この成果については次年度に報告を行いたい。

陶器山51号窯で採集された須恵器は、TK43型式～TK209型式の併行期にこの場所において生産されたものである。当該箇所は、窯が造営された当時の原地形を留めており、段丘崖には窯体が遺存し、崖下の水田には灰原が遺存しているものと思われる。今後の開発等の際には、適切な保存措置を行う必要があるため、充分に注意を喚起しておきたい。

なお、経済不況の影響からか、今年度も狹山藩陣屋跡および池尻城跡等における個人住宅建て替え等の開発が少なく、発掘調査・立会調査件数も少ないものとなったが、まだ小規模な開発は今後とも継続して発生するものと予測される。引き続き、地道な調査を重ねて市内遺跡の実態解明に役立てていきたい。

報 告 書 抄 錄

ふりがな	おおさかさやましないいせきぐんはくつちょうさがいようほうこくしょ19						
書名	大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書19						
副書名							
シリーズ名	大阪狭山市文化財報告書						
シリーズ番号	36						
編著者名	植田隆司						
編集機関	大阪狭山市教育委員会						
所在地	〒589-8501 大阪府大阪狭山市狭山1丁目2384-1 TEL.072-366-0011						
発行年月日	西暦 2009年3月31日						
所蔵遺跡名	所在地	コード		調査区	北緯	東経	調査面積 m ²
		市町村	遺跡番号				
いけてじょうあと 池尻城跡	おおさかふ 大阪府 おおさかさやましいけじりじゆうがおか 大阪狭山市池尻自由丘	27231	—	07-01	34° 30'35"	135° 32'50"	6.0
	おおさかふ 大阪府 おおさかさやましいけじりなか 大阪狭山市池尻中	27231	—	08-01	34° 30'43"	135° 33'01"	5.6
		27231	—	08-02	34° 30'30"	135° 32'56"	4.4
すえむらかまあとぐん 陶邑窯跡群 とうきやまほこうぐん 陶器山51号窯	おおさかふ 大阪府	27231	—	MT51	34° 29'48"	135° 32'40"	40.0
	おおさかさやましいまくま 大阪狭山市今熊	27231	—	08-01	34° 29'30"	135° 32'19"	5.7
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
池尻城跡	城館跡	中世・近世	08-01区	08-01区	近世集落?		
			土坑・ピット	須恵器小片・土師 質台付灯明受皿・ 染付碗			
陶邑窯跡群	生産 遺跡	古墳時代	MT51	MT51	須恵器蓋杯・有蓋高 杯・甕・広口壺・脚 付長頸壺蓋・甕		
			窯体・灰原が遺 存?				

図 版



a. 北方から



b. 南方から



a. 07-01区



b. 08-02区

図版3 陶器山51号窯（MT51）付近現況・陶邑08-01区



a. 陶器山51号窯付近現況



b. 陶邑窯跡群08-01区

圖版 4
陶器山51号窯(MT51)採集遺物(一)



5



8



7



10



16



11



12



圖版 5
陶器山51号窯(MT51)採集遺物(2)



13



14



17



18



19



21

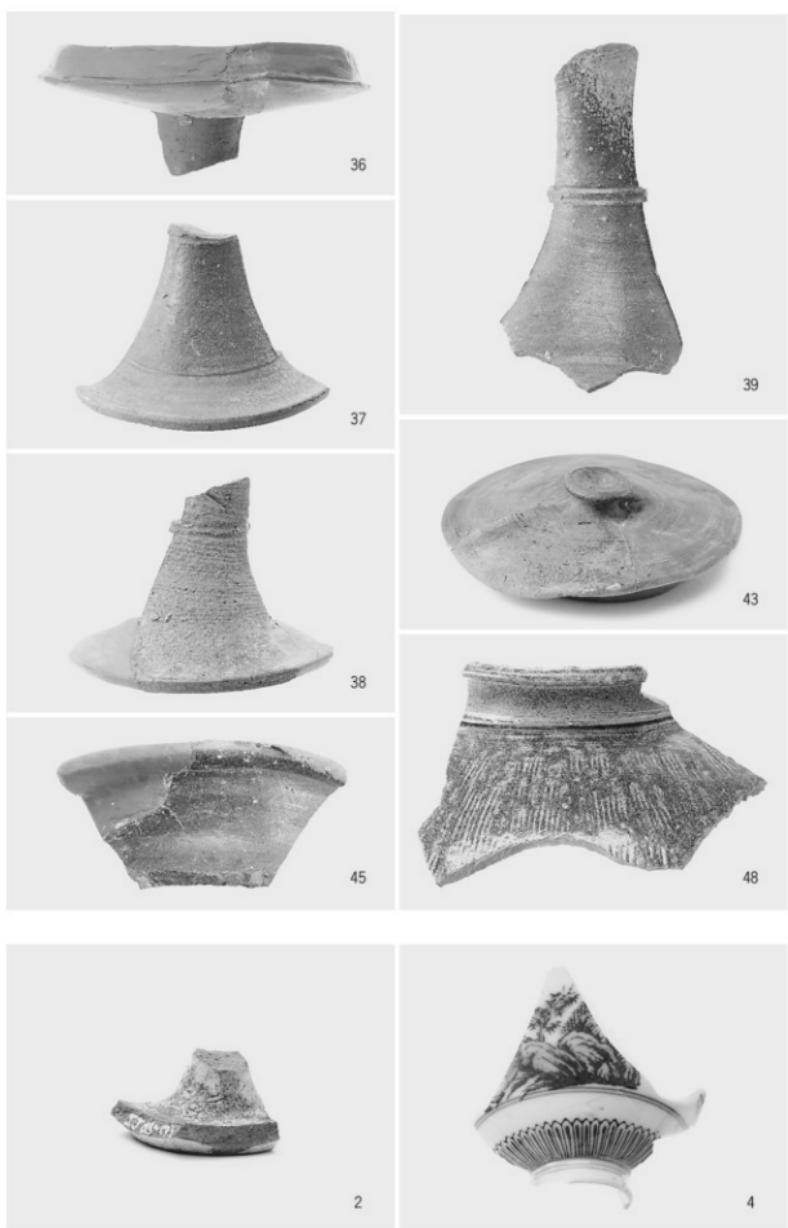


23



26

圖版 6 陶器山51號窯(MT51)採集遺物(3)·池底城跡08—01區出土遺物



大阪狭山市文化財報告書36

大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書 19

発 行 日 平成21年(2009年)3月31日

編集・発行 大阪狭山市教育委員会

大阪府大阪狭山市狹山一丁目2384番地の1

印 刷 橋本印刷株式会社

奈良県葛城市竹内365番地 1